

鶴松遺跡 VIII

平成8年度 アパート建設に伴う発掘調査報告書

1997. 3

静岡県袋井市教育委員会

鶴 松 遺 跡 VIII

平成8年度 アパート建設に伴う発掘調査報告書

1 9 9 7 . 3

静岡県袋井市教育委員会

目 次

第1章	発掘調査に至る経過	1
第2章	調査の経過	1
第3章	調査体制	2
第4章	調査の方法	2
第5章	歴史的環境	3
第6章	遺構	4
第7章	遺物	4
第8章	まとめにかえて	5
	報告書抄録	7

表 目 次

第1表	鶴松遺跡出土土器一覧表	5
-----	-------------	---

挿 図 目 次

第1図	鶴松遺跡位置図 (1/50,000)
第2図	鶴松遺跡発掘調査の位置 (1/2,500)
第3図	旧地形でみる鶴松遺跡の位置 (陸地測量部地図より)
第4図	太田川・原野谷川流域の地形・地質図 (加藤1985より)
第5図	鶴松遺跡周辺の地形・地質図 (加藤1985より)
第6図	発掘調査区全体図
第7図	溝跡030実測図
第8図	溝跡030出土土器実測図 (1)
第9図	溝跡030出土土器実測図 (2)

例 言

1. 本報告書は平成8(1996)年4月25日～平成9(1997)年3月28日の期間に、袋井市山科3388-1、3388-2番地で、アパートの建設に伴いで実施した平成8年度鶴松(つるまつ)遺跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査にあたり地主である永井宏親氏(袋井市山科3275番地)の全面的な協力を得ることができ、ここまで順調に進んだのもすべて永井氏のお陰である。ここに記して感謝したい。
3. 平成8年度鶴松遺跡発掘調査(第Ⅲ次調査)は、永井義博(袋井市教育委員会)が担当した。
4. 平成8年度の資料整理・発掘調査報告書作成も永井が担当した。
5. 鶴松遺跡における今までの発掘調査をまとめると次のとおりになる。

発掘調査	調査年度	発掘調査の原因	調査担当者
第1次調査	昭和47年(1972)	袋井土木事務所による県道浜北袋井線拡幅工事	川井正一
第2次調査	昭和57年(1982)	電信電話公社(当時)山科無線塔建設工事	永井義博
第3次調査	昭和57年(1982)	中部電力による地下高圧ケーブル埋設工事	松井一明
第4次調査	平成2年(1990)	延久地区農村基盤総合整備に伴う工事	吉岡伸夫
第5次調査	平成3年(1991)	(株)ジュビタによる個人住宅の建設工事	松井一明
第6次調査	平成3年(1991)	袋井土木事務所による県道浜北袋井線歩道設置工事	永井義博
第7次調査	平成3年(1991)	中部電力による送電線鉄塔建設工事	松井一明
第8次調査	平成8年(1996)	永井宏親氏による集合住宅建設工事	永井義博
第9次調査	平成8年(1996)	袋井土木事務所による県道浜北袋井線改良工事	永井義博

6. 発掘調査に関する事務はすべて袋井市教育委員会生涯学習課職員がおこなった。
7. 発掘資料はすべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

図版 1

- (1) 発掘調査区全景写真 (西より写す)

図版 2

- (1) 発掘調査区全景写真 (東より写す)
- (2) 発掘作業のようす

図版 3

- (1) 溝跡 030 完了写真 (北より写す)
- (2) 溝跡 030 完了写真 (南より写す)

図版 4

- (1) 溝跡 030 完了写真 (西より写す)
- (2) 溝跡 030 からの土器出土状況写真 (南部)

図版 5

- (1) 溝跡 030 からの土器出土状況写真 (中央部)
- (2) 溝跡 030 からの土器出土状況写真 (拡大)

図版 6

- (1) 溝跡 044 完了写真 (西より写す)
- (2) 溝跡 044 完了写真 (東より写す)

図版 7

- (1) 土壌 038 完了写真 (南より写す)
- (2) 土壌 040 と 041 の完了写真 (東南より写す)

図版 8

- (1) 土壌 019 と 020 の完了写真 (南より写す)
- (2) 土壌 019 と 020 の完了写真 (西より写す)

図版 9

鶴松遺跡出土土器 (1)

図版 10

鶴松遺跡出土土器 (2)

図版 11

鶴松遺跡出土土器 (3)

図版 12

鶴松遺跡出土土器 (4)

第1章 調査に至る経過

平成7年11月13日に市役所の窓口に株式会社エムディアイの太田敦之氏が訪れ、袋井市山科地内で計画しているアパート建設に伴い埋蔵文化財の所在調査依頼が提出された。そこで、袋井市教育委員会では翌11月14日に現地での遺跡所在確認を行うとともに周辺遺跡の調査例を調べた。その結果、アパート建設予定地にはすでに土盛りがされて工事に取り掛かるばかりの状況であったが、当地は静岡県内でも有数の弥生時代の集落跡・鶴松遺跡の範囲内、また周辺の調査結果より確実に遺跡の所在することが確認できたため平成7年11月16日付けの「文化財所在の有無の分布調査結果について」では試掘調査を飛ばして発掘調査の必要を回答した。これに対して、土地所有者永井宏親氏は埋蔵文化財については予想もされていなかったもので最初は当惑されていたが、埋蔵文化財に対して深い理解を示していただき教育委員会と協議の上、平成8年度に現地の発掘調査を実施することになった。

平成8年4月19日付けで永井宏親氏より文化庁長官宛て「埋蔵文化財発掘の通知について」が提出され、これに対して5月20日には周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知が静岡県教育委員会教育長大野忠より永井宏親氏あて送付され正式に工事着手前の発掘調査が指示された。

また、平成8年4月25日には、袋井市長 豊田舜次と土地所有者・永井宏親氏の間で「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」が締結され鶴松遺跡の調査が開始されることとなった。

第2章 調査の経過

平成8年4月25日 発掘調査委託契約書の締結。

- 5月2日 (株)エムディアイとの現地建物の建設位置の確認を行う。
- 5月7日 重機により発掘予定地の盛り土と水田耕作土の除去作業を行う。
- 5月8日 雨で関連作業は中止。
- 5月9日 コンテナハウス・仮設トイレの設置。発掘器材の搬入作業。
- 5月10日 作業員により発掘調査を開始する。排水用の溝を周囲に掘る。
- 5月13日 耕作土下の水田の床土部分を除去する。土器破片が混じる。
- 5月14日 土の除去作業がつづく。
- 5月15日 調査区東側よりピット（柱穴跡）と土器が出土する。
- 5月16日 調査区中央付近で溝跡が検出される。
- 5月17日 溝跡より大量の土器が出土する。
- 5月20日 調査区西側の溝跡や住居跡の一部を調査する。
- 5月22日 雨で作業は中止となる。
- 5月23日 水汲みと遺構の清掃を行う。
- 5月24日 遺構の清掃と完了写真の撮影。
- 5月27日 調査区の遺構を20分の1で平面実測し、レベルもとる。
- 5月28日 溝跡 030の土器を10分の1で実測する。
- 5月29日 溝跡 030の土器を取り上げ現地調査を完了する。
- 5月31日 現地より器材を全て撤去し引渡しを行う。
- 6月3日～平成9年3月27日 出土品資料整理・発掘調査報告書の作成。

平成9年3月27日 委託契約完了日。

第3章 調査体制（平成8年度）

調査計画	永井宏親（袋井市山科）			
調査受託	袋井市長 豊田 舜次			
調査実施機関	袋井市教育委員会			
	教 育 長	浅 井 通 男		
	教 育 次 長	前 田 富 美 雄		
	生涯学習課長	鈴 木 雅 実		
	文化財係長	吉 岡 伸 夫		
	主 査	永 井 義 博		
	主任学芸員	松 井 一 明	森 井 雅 彦	
	学 芸 員	白 澤 崇		
	経 理 事 務	鈴 木 寿 美 子		
	調査参加者	大庭嘉平	山本喜久	高橋邦夫
		鈴木定雄	高橋昭雄	山本 修
		佐藤好孝	山下悦子	大庭京子
				高木啓子

第4章 調査方法

今回の発掘調査は、袋井市山科の水田埋立地に計画されたアパート建設予定地で、大量の埋め立て土の除去が調査の大きな障害となった。アパート予定地は約半分が建物部分で残り半分が駐車スペースであったため排土置き場に苦労した。土は地中より掘り出すと3倍の量に膨れ上がるため、駐車場予定地には小山のように排土が積み上げられ風に飛ばされないように全面をブルーシートで覆った。建物部分は重機により埋め土、水田耕作土、水田床土を除去した後は作業員の手作業により遺構直上の土を削りながら遺構確認の精査を行っていった。このあたりは遺物包含層が水田耕作のため失われておりただちに溝跡やピットが確認できる。まだ、同一の確認面ですべての時代の遺構が一度に検出されるが、遺構内の覆土の違いによってもある程度の時代を把握することができる。

排水作業は現場に電灯線を引けなかったため集水マス内に2インチポンプを常設して、降雨時のみマニュアルで電源を入れて排水作業を行った。この時期にしては比較的好天が続いて助かったが、ある雨天の日の翌日は遺跡内はブルーとなりバケツ・ヒシャクを使つての排水作業もあった。

遺跡の実測作業については、予算を押さえた現場のためラジコンヘリコプターによる空中写真測量が使用できず、調査員の手作業により実測を行った。遺構平面図は20分の1の図を基本として、土器の集中出土地点については10分の1の詳細図を作成した。レベル等については道路工事のために運ばれたベンチマークが近くにあったためこれを使用した。

遺構・遺物の写真撮影は、中型カメラ（アサヒペンタックス6×7）1台と、小型カメラ（ニコンF401等）2台を使用した。使用フィルムはモノクロフィルムは富士写真フィルム株式会社のネオパンSSを使用し、リヴァーサルフィルムも同じく富士写真フィルム株式会社のフジクローム100デライトフィルムを使用した。また、現場のスナップ写真として依頼主への調査状況報告のためボラロイドのジョイカムを使用した。

第5章 地理的歴史的環境

1. はじめに

太田川中流域の遺跡をとりまく環境については「鶴松遺跡」「土橋遺跡」「鶴田Ⅱ遺跡」「堀越ジョウヤマ遺跡」等の多くの報告書がこれを解説している。そのため、本文ではその詳細については触れないが、ここでは今までのいくつかの調査例からその概要のみを記していきたい。

2. 南北に伸びる微高地

静岡大学名誉教授の加藤芳朗氏は太田川流域の地質調査から「土橋遺跡」の報告書の中で、鶴松遺跡については太田川左岸の後背湿地の中にあり（途中略）その立地条件をさぐるべく調査を行った結果、山梨～田中～鶴松～徳光～西別所～土橋と続く太田川からの旧派主流路を中心として立地したことがわかったと記している（加藤1985『土橋遺跡 基礎資料編』袋井市教育委員会他）。

3. 自然発生的状況によるムラの発生

土橋遺跡の報告書の中で加藤芳朗氏の述べた太田川中流域の地形・地質という舞台の上で当時の人々はどことなくらしをしていたのであろうか。肥沃な平野という特性は、ここに住む弥生人・古墳時代の人々の生活にかなりの余裕を与えていたと考えることができる。ただし、それがすべて個人の手に残ったことは別であるがかなりの生産量が予想できる。このような状況のなか、鶴松のムラは弥生時代の中期中葉ころから開始されたことが今までの発掘調査の結果からわかっている。もちろん鶴松のムラの生産基盤は水稻耕作であり、それをなくしてはここにムラの成立する要因を見付けることはできない。弥生時代にここで生活を始めた人々は基本的には古くからここに住む在地の縄文人たちではなく、稲作技術を持って西からやってきた移民たちであったと考えられる。かれらが、この地に移ってきた沖積平野の微高地は縄文時代から主に採集生活で暮らしてきた人々にとっては重要な場所ではなく、当初は在地に人々と移り住んだ人々の住み分けがなされていた可能性がある。そして、時間の経過とともに生産量の低い在地の人々が吸収されていったと見るのが一般的かもしれない。この稲作技術を持った移民たちが基本的にどのルートを通して太田川流域までたどりついたか確定した事実は分らないが、浜名湖北岸から浜北～天竜～豊岡と伝ってきたと推測できる。

4. 「親村」と「子村」

さて、鶴松のムラで萌芽した太田川中流域の稲作文化は、その豊かな生産力を背景に人工増加を産みさらには生産力の増加を見せて可耕地の拡大を進めていった。そのためには水源の確保が大切になってくる。またその水源から田に水を引くための灌漑や余った水を流す排水路の整備も行われ母なるムラとして様相を整えていったと考えられる。しばらくのあいだは、この肥沃な平野は弥生人たちの暮らしを支えてきたが、さらなる人工増加は徐々に食糧不足を起し、弥生時代後期の前葉から新たな可耕地を求めて河川の下流域にムラの膨張が開始された。ここに鶴松遺跡を「親村」として南へは「徳光遺跡」→「土橋遺跡」→「玉越遺跡」と太田川の旧流路が形成した自然堤防上とその後背湿地の中に島状に浮かぶ微高地を求めて必然的に新たな「子村」を生み出していったのである。

これらのグループの中では鶴松のムラが分水管理で指導的役割を果たすが、このころはまだあくまでも鶴松のムラが支配的立場と考えるより同じグループの先駆者として後発の村の育成をする立場であったと考えたい。ところが、鶴松より上流域でも川田遺跡～鶴田Ⅰ遺跡～鶴田Ⅱ遺跡と展開する宇刈川流域の小さな河川と谷水に頼る耕作ははじまってくる。これらは、時代が下がつて土木技術の開発により今まで水田開発の不可能であった地域まで開墾することができるようになったと見たい。

第1表 鶴松遺跡出土土器一覧表

(単位: cm)

挿 図 ナン バー	実 測 番 号	写 真 図 版	出土遺構名	器 高 ()現存高	口 径 ()は復元	胴部最大 ()は復元	底 径 ()は復元	備 考
8	1	4	溝跡030	(13.8)	12.4	—	—	壺
8	2	8	溝跡030	(7.5)	8.5	—	—	◇
8	3	7	溝跡030	(9.5)	6.5	—	—	◇
8	4	3	溝跡030	(20.5)	9.8	17.2	—	◇
8	5	1	溝跡030	(18.3)	12.0	—	—	◇
8	6	2	溝跡030	(23.2)	13.8	—	—	◇
8	7	—	溝跡030	(3.4)	—	—	5.7	◇
8	8	—	溝跡030	(6.8)	—	—	6.8	◇
8	9	6	溝跡030	(7.2)	—	—	5.5	◇
9	10	—	溝跡030	(5.0)	26.6	—	—	高坏
9	11	5	溝跡030	(16.2)	23.3	22.4	—	甕
9	12	—	溝跡030	(18.1)	(25.2)	—	—	高坏の脚部
9	13	13	溝跡030	(4.8)	—	—	6.6	◇
9	14	12	溝跡030	(8.2)	—	—	9.2	◇
9	15	11	溝跡030	(8.6)	—	—	7.5	◇
9	16	9	溝跡030	(8.4)	—	—	—	◇
9	17	10	溝跡030	(8.2)	—	—	(10.0)	台付甕の脚部
—	—	14	土壌041	(9.6)	—	—	(8.8)	◇
—	—	15	土壌041	(11.0)	—	—	(11.6)	◇
—	—	16	溝跡044	(12.1)	15.5	—	—	壺
—	—	17	溝跡044	(8.4)	8.8	—	—	◇
—	—	18	溝跡044	(8.6)	8.0	—	—	◇
—	—	19	溝跡044	(10.5)	8.8	—	—	◇
—	—	20	溝跡044	(22.2)	23.0	22.0	—	甕
—	—	21	土壌044	(5.6)	—	—	5.4	壺
—	—	22	土壌044	(10.4)	—	—	9.6	台付甕の脚部

第8章 まとめにかえて

今回の発掘調査では小規模な調査ながら次のような多大の成果を得ることができた。これらの結果により、弥生時代の遺跡として鶴松遺跡の重要性はますます高まるばかりで、本格的な学術調査の必要性も考えなければならない時期にきていると思われる。特に鶴松遺跡は、集落跡として住居域や墓域、そして生産域である水田跡の検出など包括的な調査で「弥生のムラ」の全体像を復元できる数少ない遺跡である。一般の小規模発掘の連続で気が付いた時はすでに遺跡はなくなっていたのでは文化財保護行政も空しいといえる。

- (1) 今回の発掘調査の遺構は溝跡や土壌・柱穴跡が多く、その出土土器は弥生時代中期末から後期前半のものが中心であった。溝跡は環濠というよりは区画溝か周溝墓のような小規模なものである。
- (2) 調査区西側の土壌001付近では旧河道跡とみられる礫層が確認された。小河川と集落跡の関係を考える上で微高地形成を理解する好資料であろう。
- (3) 昭和57年7月に袋井市新池に建設中のハウス食品に送電する地下ケーブルの埋設工事のため、袋井市教育委員会松井一明学芸員（当時）により発掘調査が行われた。この時、今回の調査で検出された溝跡030が、当時の第3トレンチでSD1として調査され、弥生時代後期前葉の土器を出土している。今後はさらに溝跡030との比較分析が必要になってくると思われる。

最後に、今回の調査にあたり土地所有者の永井宏親氏は、文化財の重要性について深いご理解をいただき、全面的な協力を申し出てくださった。改めて、ここに記して感謝の意を表したい。

（袋井市教育委員会 永井義博）

参考文献・引用文献の一部

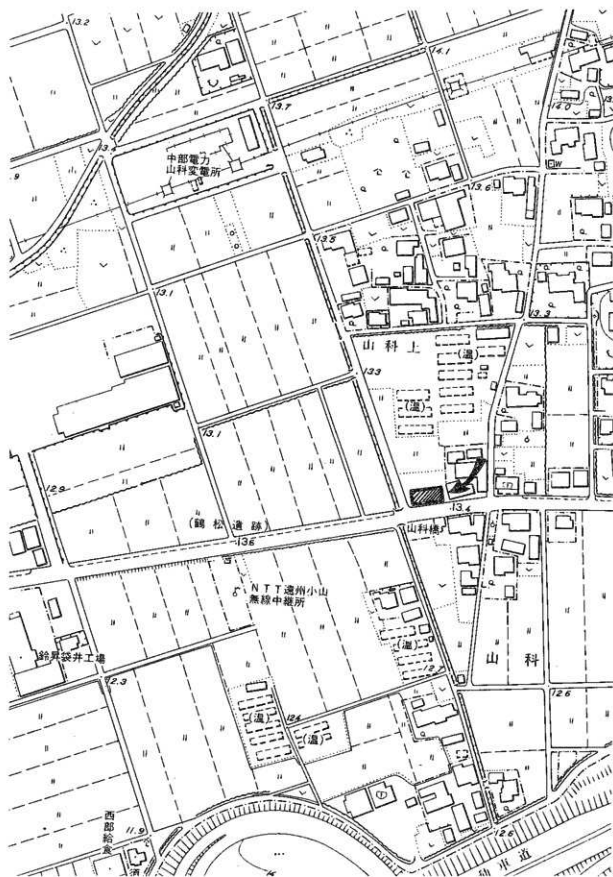
- 袋井市教育委員会 1987 『鶴松遺跡Ⅱ』
— 日本電信電話公社山科無線中継所建設に伴う発掘調査報告書—
- 袋井市教育委員会 1983 『鶴松遺跡Ⅲ』
— 中部電力株式会社地中配線工事に伴う緊急発掘調査概報—
- 袋井市教育委員会 1991 『鶴松遺跡Ⅳ』
— 延久地区農村基盤総合整備事業（集落型）施行に伴う発掘調査報告書—
- 袋井市教育委員会 1991 『堀越ジョウヤマ遺跡発掘調査報告書』
- 袋井市教育委員会 1991 『袋井市鶴田Ⅱ遺跡』
— サンレンタル株式会社建設工事に伴う緊急発掘調査報告書—
- 袋井市教育委員会 1992 『鶴松遺跡Ⅴ』
— 株式会社ジュビタ住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書—
- 袋井市教育委員会 1993 『鶴松遺跡Ⅵ』
— （主）浜北袋井線特定交通安全施設1種工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

挿

図



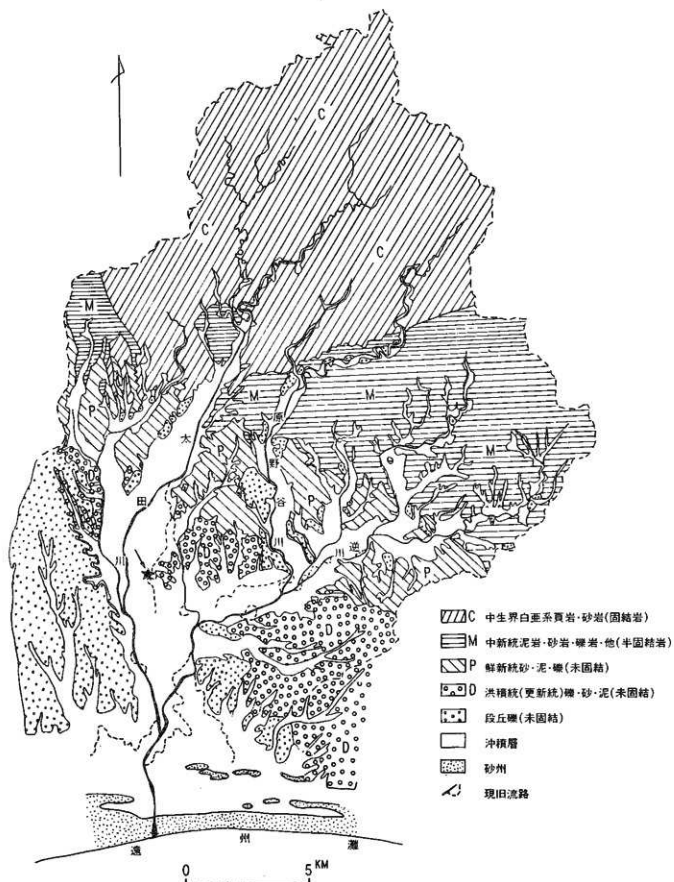
第1図 高松遺跡位置図 (1/50,000)



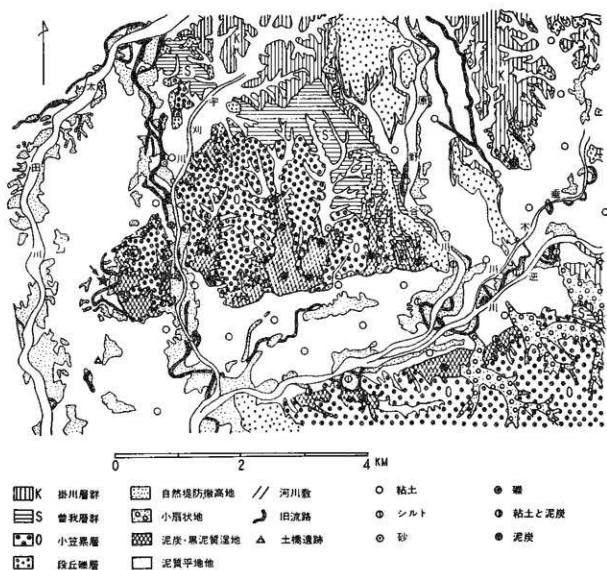
第2図 鶴松遺跡発掘調査の位置 (1/2,500)



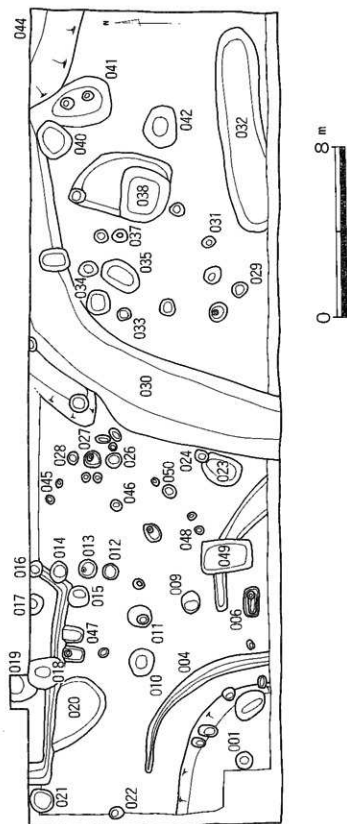
第3図 旧地形で見る鶴松道跡の位置 (陸地測量部地図より)



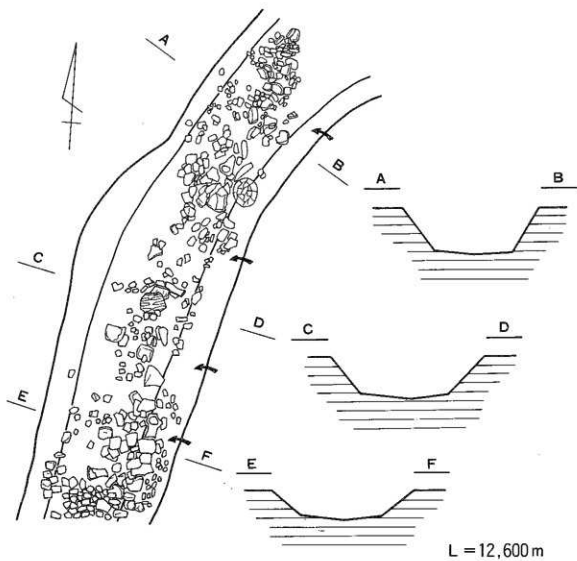
第4図 太田川・原野谷川流域の地形・地質図 (加藤1985より)



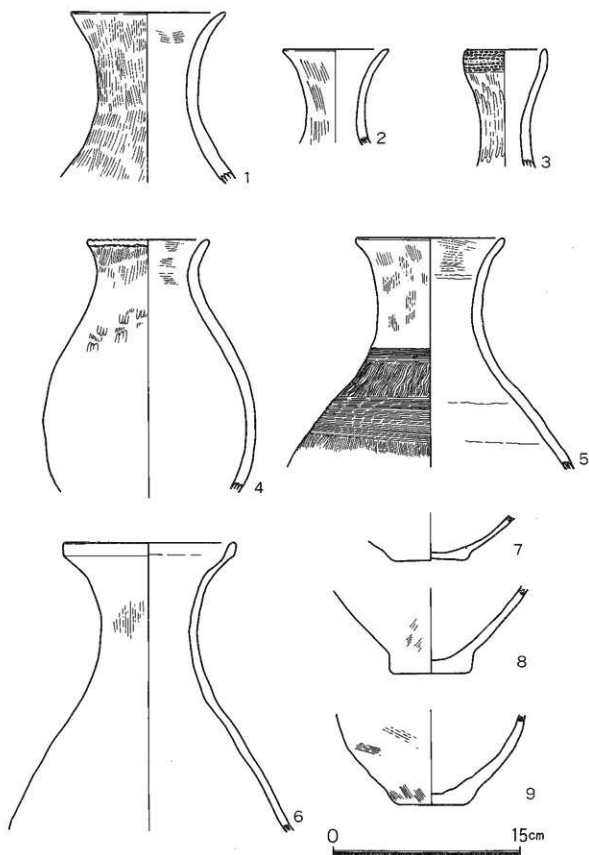
第5図 鶴松遺跡周辺の地形・地質図（加藤1985より）



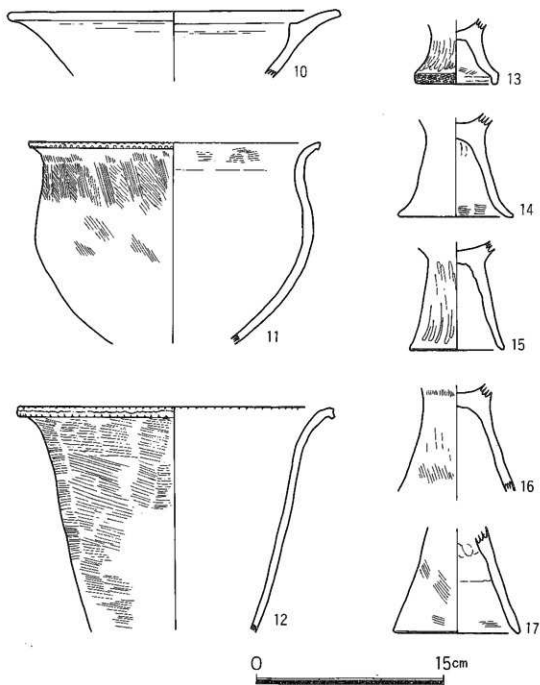
第6图 发掘调查区全体图



第7图 溝跡030实测图

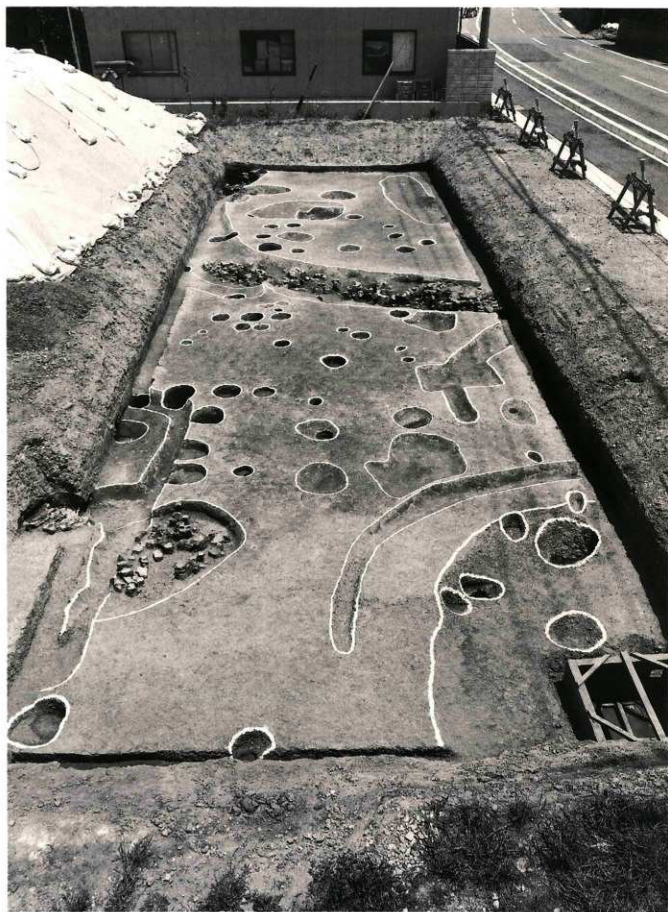


第8图 沟迹030 出土土器实测图(1)

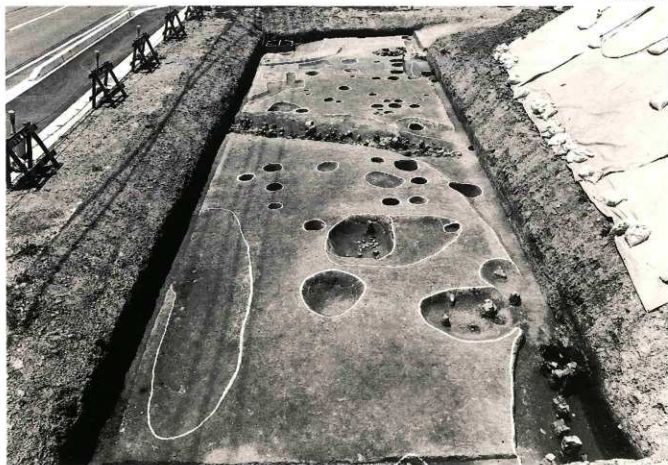


第9图 沟迹030出土土器实测图(2)

写真図版



(1) 発掘調査区全景写真 (西より写す)



発掘調査区全景写真（東より写す）



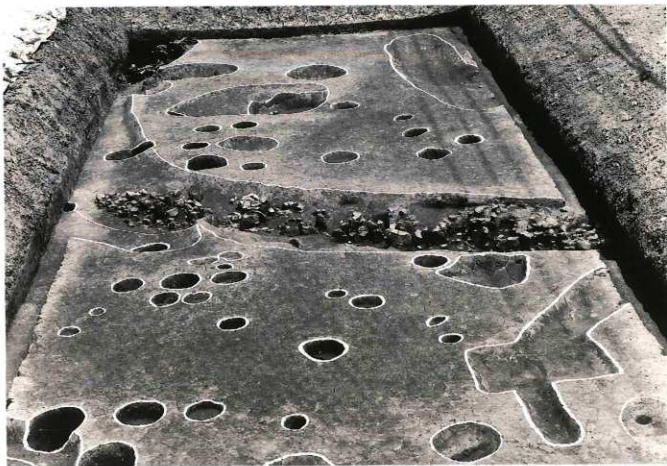
(2) 発掘作業のようす



(1) 溝跡030完了写真(北より写す)



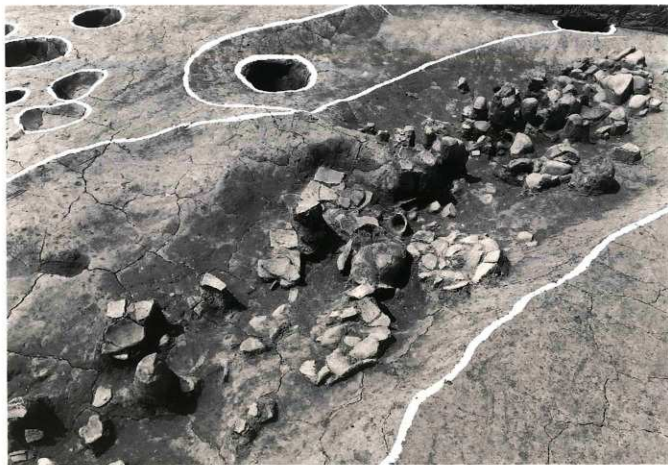
(2) 溝跡030完了写真(南より写す)



(1) 溝跡030完了写真(西より写す)



(2) 溝跡030からの土器出土状況写真(南部)



(1) 溝跡030からの土器出土状況写真(中央部)



(2) 溝跡030からの土器出土状況写真(拡大)



(1) 溝跡 0 4 4 完了写真 (西より写す)



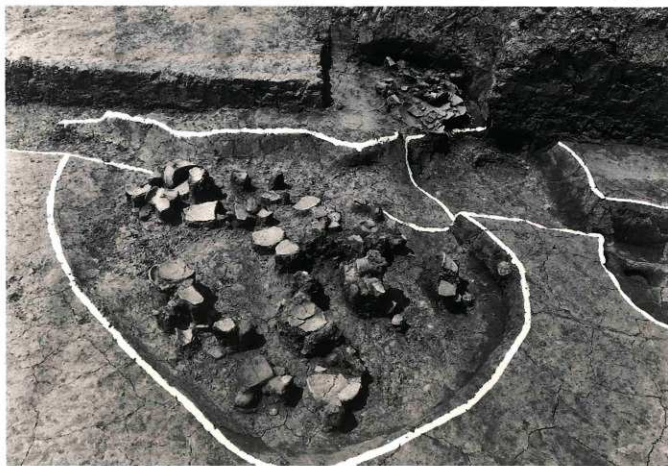
(2) 溝跡 0 4 4 完了写真



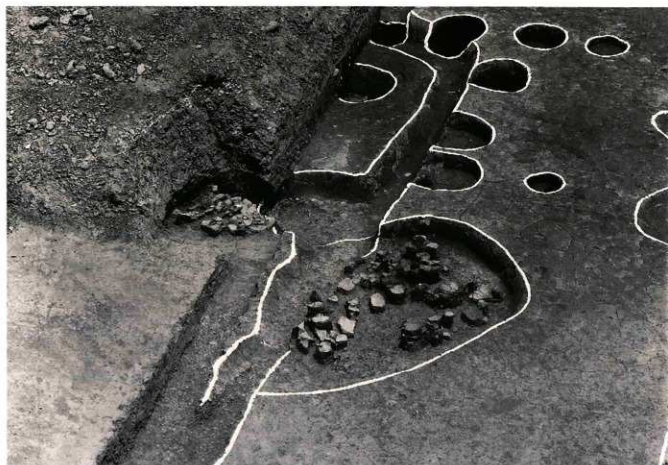
(1) 土坑038完了写真



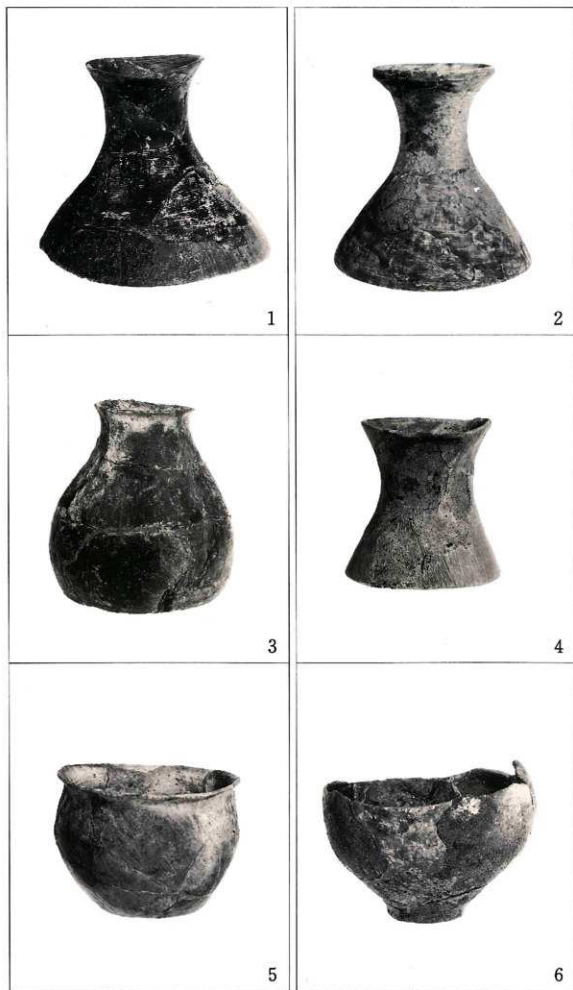
(2) 土坑040と041の完成写真(東南より写す)



(1) 土壙019と020の完了写真



(2) 土壙019と020の完了写真 (西より写す)



鹤松遺跡出土土器 (1)



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22

鶴松遺跡出土土器 (4)

報 告 書 抄 録

ふりがな	つる まつ い せき							
書 名	鶴 松 遺 跡 Ⅷ							
副 書 名	平成8年度 アパート建設に伴う発掘調査報告書							
編 集 者 名	永井義博							
編 集 機 関	袋井市教育委員会							
所 在 地	〒437 静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1 TEL0538-44-3141							
発 行 年 月 日	1997年3月10日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 (一㎡)	調査 原因
つるまついせき 鶴松遺跡	しずおかけんふくろいし 静岡県袋井市 やましろ 山科3388-1 外1筆	22216	140	34° 45' 34"	137° 54' 27"	19960425 ↓ 19970328	198㎡	アパ ー ト 建 設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主な遺物		特 記 事 項		
つるまついせき 鶴松遺跡	集落跡	弥生時代	住居跡、溝跡 柱穴跡、土塋	弥生土器 木 製 品		弥生時代中期～後期の 集落跡として著名な鶴 松遺跡の調査。遺跡の 東限のため出土遺物は 比較的少ない。 陶磁器片も若干出土し ている。		

鶴松遺跡Ⅶ

平成8年度アバト建設
に伴う発掘調査報告書

1997年3月

編集 静岡県袋井市新屋1-1-1
袋井市教育委員会

☎0538-44-3141

印刷 静岡県榛原郡吉田町片岡2210
松本印刷株式会社